小谷内敬史先生（医学科３２期）アンケートご回答

質問１　受賞の喜びをお聞かせください。

この度は歴史ある浜松医科大学同窓会松門会学術奨励賞に選出いただきまして大変光栄に感じております。本研究にご協力、ご助言いただきました聖隷三方原病院森田先生、名古屋大学佐藤先生、本学第二内科鈴木勇三先生、須田教授、ならびに選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。これを励みに一層頑張っていきたいと思います。

質問２　いつ頃からどのようなきっかけで今回のテーマに取り組まれたのでしょうか。

間質性肺疾患における緩和医療は大きなアンメットメディカルニーズの一つであります。私自身実臨床において対応の難しさを感じることが多々あり、間質性肺疾患患者の終末期医療の現状と遺族の感じる満足度を調べようと思ったのがきっかけです。そこからがん緩和の第一人者である森田先生を頼り、少しずつ計画を練っていきました。

質問３　今回の研究でご苦労された点はなんでしょうか。

先行で同様の研究がないため、間質性肺疾患患者用のアンケートを作成するのに苦労しました。アンケート発送後はご遺族からの問い合わせ対応に苦慮しました。同時にやはり遺族からしても改善してほしいところなのだなと改めて感じました。

質問４　近況をお聞かせください。

現在浜松医科大学大学院生最終学年であり、基礎実験の詰め作業を行っています。基礎研究は分子生物学講座に所属し、丹伊田先生、北川先生にご指導いただいております。業績を重ねると共に体重も激増してしまい、周りからも心配されるため、一念発起しMMAジムに通い始めました。自分の体の重さ、体力のなさに衝撃を受けております。

質問５　今後の課題についてお聞かせください。

現在、本研究をもとに難治性疾患等政策研究事業びまん性肺疾患に関する調査研究班主導で間質性肺疾患遺族を対象とした全国調査を実施しており、できるだけ早く結果を公表したいと考えております。将来的には呼吸困難に対するモルヒネの保険適応、Advance care planningの一般化を目標に、介入研究につなげていきたいと考えております。個人的には継続的にジムに通うこと、体重を10kg減らすことを目標にしています。

質問６　今後の同窓会に望むことをお聞かせください。

今回の奨励賞受賞はおおいに励みとなりました。母校との繋がりも改めて感じることができました。是非継続していただき、浜松医大卒者の研究活動をアピールする場となっていただきたく存じます。浜松医科大学同窓会のさらなる発展を心より祈念しております。